

真野川親水サイクリングロード利活用推進計画の概要

計画策定の目的

鹿島区には、セデッテかしまや烏崎海浜公園などサイクリングとともに楽しめる商業施設や多彩な景観があります。真野川親水サイクリングロードには、日頃の運動不足の解消や水辺空間での癒しによる気分転換といった市民の新たな健康づくり拠点、サイクリングを通じた交流の創出による市民相互の一体感の醸成、地域資源の有効活用を図りながらサイクリングを通じた街なかへの来訪者の誘導や観光スポットへの誘客による賑わいづくりとしての役割が期待されています。

一方、現状では市民の自転車利用率は高いとはいえず、自転車に乗る頻度やサイクリングロードの認知を高める取り組みが必要とされています。本計画にある走行環境の充実や情報発信といった施策を通じ、地域住民の健康増進、地域の活性化、交流人口の拡大等に資することを推進します。

計画の期間

2024年（令和6年）～2028年（令和10年）の5年間

計画の対象地域

真野川親水サイクリングロード及びその周辺区域

関連計画との関係

南相馬市第三次総合計画

真野川親水サイクリングロード
利活用推進計画

整合
連携

【国・県】

- ・自転車活用推進計画
- ・スポーツ基本計画
- ・福島県自転車活用推進計画

【関連計画（市）】

- ・南相馬市保健計画
- ・南相馬市スポーツ推進計画

現状の分析

利用環境

- ・地元の方の認知度は高いものの、利用率は低い。
- ・地域外のサイクリストからの認知度は低く、利用している人も少ない。
- ・景観や見通しが良く、交通量も少ない平坦コースなので初心者には好評である。
- ・地域内に自転車活用に取り組む団体が存在しない。
- ・真野川親水サイクリングロードは県広域サイクリングルートと直結している。

健康づくり

- ・健康のために自転車に乗りたいというニーズはあるものの、用事が無いから乗らないというギャップがある。
- ・保有している自転車のタイプはシティサイクルがほとんどであり、日常利用や健康づくりが中心となっている。
- ・自動車免許取得後は、自転車に乗らなくなったり保有していない人も多い。

観光・地域振興

- ・周辺にはセデッテかしまや烏崎海浜公園といったサイクリングとともに楽しめる施設がある。
- ・地域外のサイクリストに向けて、走ってみたいと思わせる拠点整備や情報発信が必要である。
- ・本格サイクリストにとっては短い距離のサイクリングロードであるため、サブコースの開発や広域ルートとの連携が必要である。

安全・安心の確保

- ・コース上で横断する箇所では自動車との接触リスクがある。
- ・路側帯が狭い箇所がある。
- ・案内看板が見えづらい箇所がある。
- ・矢羽根も充分整備されているとはいえない。
- ・区内に自転車店が無いため、定期的な自転車の整備が難しい。
- ・快適な走行環境の維持のため、草刈りなど景観維持が必要である。

真野川親水サイクリングロード利活用推進計画の概要

計画のコンセプト

真野川親水サイクリングロードの利活用を推進するにあたって、市民や域外のサイクリストが走ってみたいと思うサイクリングロードを目指すにあたり、以下のコンセプトをもとに本計画を策定します。

コンセプト/基本方針	基本施策	計画の目標	現状値 (R5)	目標値 (R10)
まのサイ ※ 誰でも楽しく安全に走れる サイクリングロード ※「真野川親水サイクリングロード」の略	A : 安心・安全な“まのサイ”	鹿島区内の年間自転車事故発生数 (過去3年の平均)	4件/年	0件/年
	B : “まのサイ”で 人も地域も元気に	サイクルイベントを開催する団体数	0団体	2団体
		月1回以上自転車を利用する市民の割合	55.7%	75%
		サイクルラックの設置施設	0箇所	10箇所
	C : “まのサイ”をたくさんの人に	真野川親水サイクリングロード年間利用者数	7,000人(推計)	18,000人

施策の展開

まのサイ 誰でも楽しく安全に 走れるサイクリングロード	A 安心・安全な “まのサイ”	(1)案内看板や周辺の整備による走行環境の充実	(2)他地区の自転車店と連携した事業の実施
		(3)レンタサイクルやシェアサイクルの整備	(4)自転車利用に係る安全教育の充実
	B “まのサイ”で 人も地域も 元気に	(1)市民が自転車に乗るきっかけとなるサイクリングイベントの開催	(2)セデッてかしまを拠点とした整備や周辺スポットの受け入れ体制を強化
		(3)市内事業者等を含めた推進体制の構築	
	C “まのサイ”を たくさんの人に	(1)福島県内や近隣地域のサイクリストへの情報発信	(2)福島県広域サイクリングルートとの連携
		(3)地域外から誘客を目的としたサイクリングイベントの開催	(4)自転車以外の用途での利用促進

真野川親水サイクリングロード利活用推進計画の概要

重点施策

現状	課題	本計画における対応方針	施策No
・（一般道部分）標識が分かりにくい/車との接触リスクが高い ・（河川敷部分）雑草や歩行者との接触リスク	初心者でも安心して迷うことなく快適にサイクリングを楽しむ・ことが出来るサイクリングロード環境の整備が必要である	案内看板や周辺の整備による走行環境の充実	(A-1)案内看板や周辺の整備による走行環境の充実 ・案内看板や矢羽根等の整備 ・河川敷の草刈りや環境整備 
・自転車を持っているが、車での移動が主となり、過去1年間自転車に乗っていない人が約半分を占める	自転車を所有しているものの、きっかけが無いため自転車に乗ることがない	・市民が自転車に乗るきっかけとなるサイクリングイベントの開催 ・自転車利用に係る安全教育の充実	(B-1)市民が自転車に乗るきっかけとなるサイクリングイベントの開催 ・試走会やサイクリングツアーなど、市民が自転車に乗ることによってその楽しさを感じることが出来るイベント開催 
・セデッテかしま等、拠点となり得る施設が未整備	サイクリング拠点へのレンタサイクルやサイクリングロード周辺の店舗にサイクリストが安心して立ち寄ることの出来る設備の整備が必要である	セデッテかしまを拠点としたサービスの整備や周辺スポットの受け入れ体制を強化	(B-2)セデッテかしまを拠点としたサービスの整備や周辺スポットの受け入れ体制を強化 ・セデッテかしまのサービス整備 ・周辺スポットへのサイクルラック等設置 

真野川親水サイクリングロード利活用推進計画の概要

重点施策

現状	課題	本計画における対応方針	施策No
・自転車活用に向けた推進体制が存在せず、実施主体が不明瞭	自転車を活用しているプレイヤーが点在しており、市として統一した取り組みを行っていない	市内事業者等と連携した事業の実施	(B-3)市内事業者等を含めた推進体制の構築 ・スポーツ協会やサイクリングクラブ等、地域の事業者や団体を巻き込んだ形での推進体制の設立 
・福島県内からもサイクリングロードの認知が3割未満である	他のサイクリングロードと比べ、県内外いずれも認知が低い	福島県内や近隣地域のサイクリストへの情報発信	(C-1)福島県内や近隣地域のサイクリストへの情報発信 ・チラシ等を近隣のサイクリストへ配布 ・ターゲットを明確にした上で、効果的なWEBプロモーションを行う 

